

サステナビリティの取り組み

サステナビリティに関するJR西日本グループの考え方

JR西日本グループは、安全を基盤に、広域でインフラサービスをはじめとしたさまざまな事業を展開しており、多くのお客様との接点や地域とのつながりを持っています。「私たちの志」のもと、持続可能な社会づくりと、

企業グループの持続的な発展に重要なサステナビリティの観点から、社会の課題に向き合い、つながりを進化させ、事業活動を通じた社会的価値と経済的価値の創出を通じ、SDGsの達成にも貢献していきます。

サステナビリティ推進体制

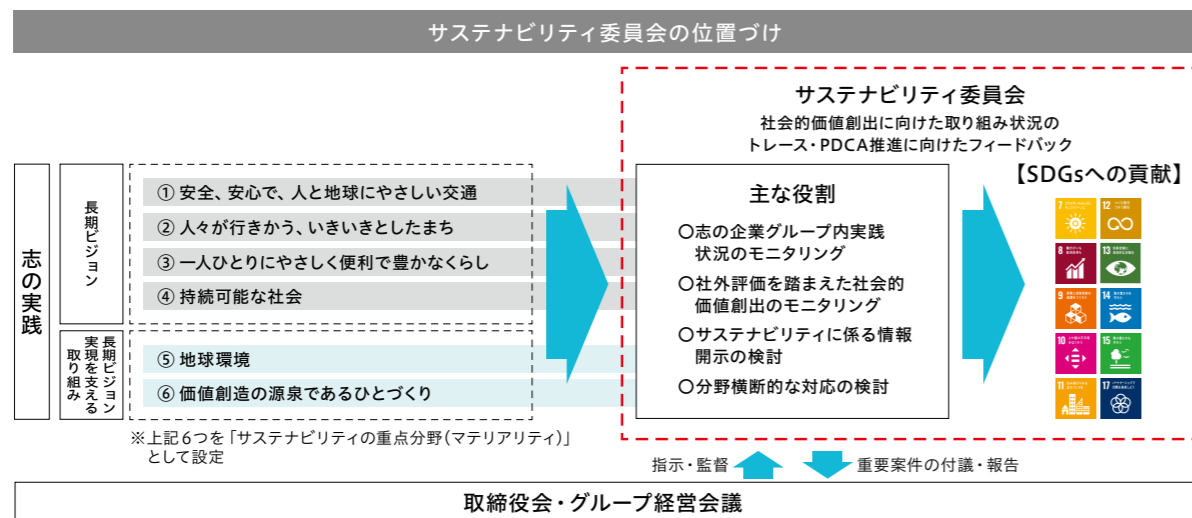
サステナビリティに係るリスクや機会、取り組み等を審議するための体制として、「サステナビリティ委員会」を設置しています。同委員会は、代表取締役社長を委員長として、本社部門を所管する業務執行取締役や、サステナビリティの取り組み推進および情報開示を所管する関係部門の長などで構成し、原則年2回開催しています。また、その審議内容は取締役会およびグループ経営会議に付議・報告しており、社外取締役も交えて議論を重ねることにより、取り組みを確認しています。

JR西日本グループは、「私たちの志」の実現に向け、「長期ビジョン」を策定し、重点的に向き合う4つの社会課題を設定しました（「安全、安心で、人と地球にやさしい交通」、「人々が行きかう、いきいきとしたまち」、「一人ひとりにやさしく便利

で豊かなくらし」および「持続可能な社会」）。

また、「長期ビジョン」に掲げる社会課題の解決に取り組む基盤である「地球環境」と「価値創造の源泉であるひとづくり」を加えた6つを、「サステナビリティの重点分野（マテリアリティ）」として設定しています。

社会的価値創出に向けては、マテリアリティの実現と、それらの中心にある「私たちの志」の共有と発信が重要であると考えており、サステナビリティ委員会では、「私たちの志」の実践や長期ビジョンに向けた各分野の取り組み状況について、社外からの評価、目標への到達度や課題なども踏まえて俯瞰的に確認し、関係する部門へフィードバックを行うことでPDCAサイクルを回すこととしています。



ESG外部評価

当社は、以下のESGインデックスの構成銘柄に指定されています。

2024 CONSTITUENT MSCI ジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

THE INCLUSION OF West Japan Railway Company IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF West Japan Railway Company BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



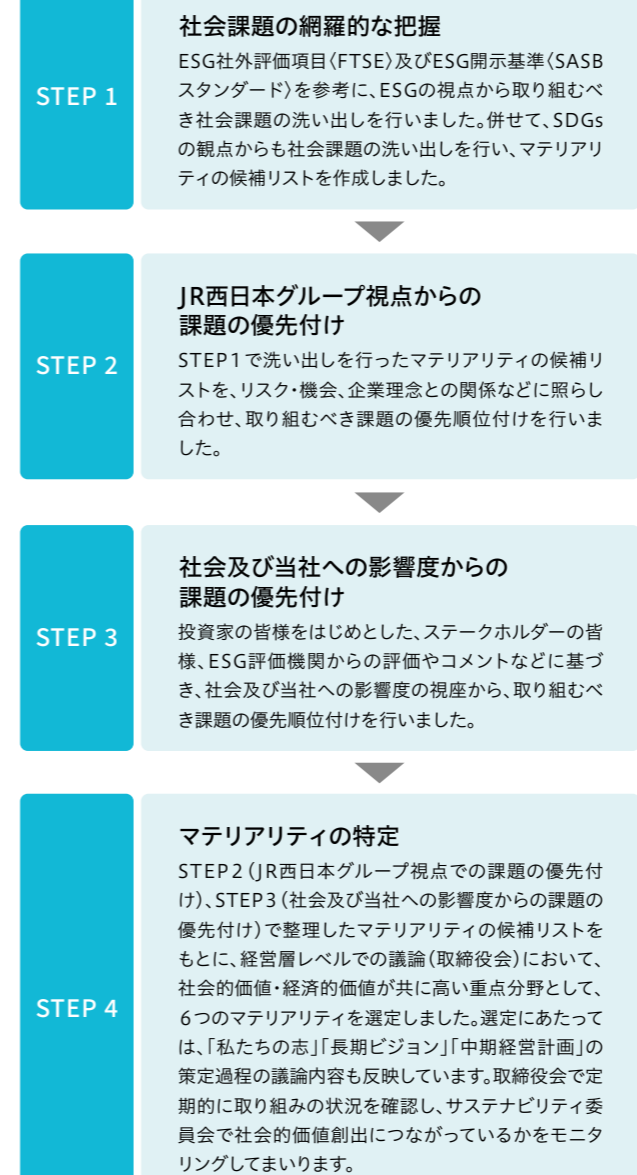
マテリアリティの特定

サステナビリティの重点分野（マテリアリティ）の特定プロセス

限りある資源を有効活用する観点から、自社の企業価値向上と特に関係が深い重点分野（マテリアリティ）について、経営層レベルで議論を行いました。マテリアリティの特定にあたっては、社会課題を把握し候補リストを作成したうえで、社会的価値（社会への影響度）と経済的価値（当社への影響度）の二軸で評価し、社会的価値・経済的価値が共に高い課題を抽出しました。

また、並行して実施した「私たちの志」「長期ビジョン」「中期経営計画」の策定に向けた議論を踏まえ、10年後の変化に伴うさまざまな社会課題の顕在化を想定し、重点的に向き合う4つの課題設定（＝長期ビジョン）と、その実現を支える「地球環境」、「価値創造の源泉であるひとづくり」の課題と併せ、マテリアリティを設定しました。

マテリアリティ特定に至る具体的プロセス



STEP 1・STEP 2

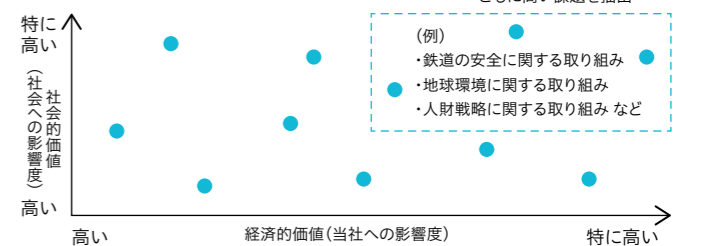
マテリアリティ候補のリストアップのイメージ

〈ESG社外評価項目およびESG開示基準に基づく社会課題の洗い出し（一例）〉			
	E（環境）	S（社会）	G（ガバナンス）
FTSE	・生物多様性 ・気候変動	・顧客責任 ・人権とコミュニティ	・腐敗防止 ・税の透明性
SASBスタンダード	・温室効果ガス排出量 ・エネルギー管理	・製品と品質の安全性 ・従業員の健康と安全	・経営倫理 ・クリティカルインシデント管理

〈SDGsに基づく社会課題の洗い出し（一例）〉			
JR西日本グループ事業との関連性	E（環境）	S（社会）	G（ガバナンス）
特に高い	・気候変動対策 ・海洋資源の保全	・雇用と働きがいのある仕事 ・持続的な観光業促進	・効率的な公的・官民・市民社会のパートナーシップの促進
高い	・水と衛生の持続可能性の確保 ・持続可能なエネルギーの確保 ・生物多様性の損失防止	・女性参画と平等なリーダーシップの確保	
低い		・貧困撲滅 ・健康的な生活の確保 ・質の高い教育の確保	

STEP 3

マテリアリティの優先付けのイメージ



STEP 4

6つのマテリアリティ

- 長期ビジョン
- (1) 安全、安心で、人と地球にやさしい交通
 - (2) 人々が行きかう、いきいきとしたまち
 - (3) 一人ひとりにやさしく便利で豊かなくらし
 - (4) 持続可能な社会
- +
- 長期ビジョン実現を支える取り組み
- (5) 地球環境
 - (6) 価値創造の源泉であるひとづくり

サステナビリティの取り組み

社会的価値の創出を支える、「私たちの志」の共有と発信

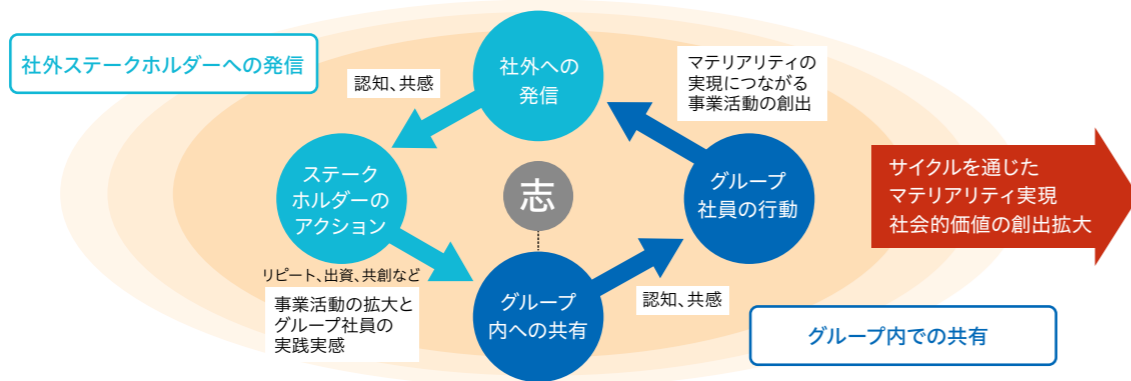
JR西日本グループのマテリアリティは、「私たちの志」をめざす姿として、社会的価値向上と関係が深い重点分野として設定しており、さまざまな事業活動を通じた価値創出を積み重ねることで、その実現をめざしています。マテリアリティの実現につながる事業活動を生み出し、育てていくためには、めざす姿である「私たちの志」に対する理解や共感を広げることが大切であると考えています。

JR西日本グループでは、「私たちの志」を軸に、グループ社内への共有と社外のステークホルダーへの発信のサイクルを繰り返しながら、マテリアリティの実現につながる事業活動と価値創出を広げることをめざしています。グループ内での共有においては「私たちの志」を掲げる意義や想いを広めるとともに、社会的価値創出に向けた機運を高めていくことを通じて、グループ

社員の具体的な行動につなげることで、実際にマテリアリティの実現につながる事業活動を創出します。社外ステークホルダーへの発信においては、事業活動を踏まえ、私たちがどのような企業グループでありたいかをお伝えし、共感にもとづく好意的なアクションにつなげることで、事業活動の拡大とグループ社員の実感を生み出し、次なる共有につなげます。このサイクルを継続させていくことで、グループ社員の行動やステークホルダーのアクションが強化され、事業活動を通じたマテリアリティの実現、社会的価値の創出拡大につなげていくことをめざしています。

サステナビリティ委員会では、こうしたサイクルの実践状況を確認するとともに、社員意識アンケートやブランド調査等のモニタリング結果をフィードバックすることで、今後の活動の質的向上に役立てています。

「私たちの志」の実践とマテリアリティ・社会的価値創出との関係性、取り組み事例



マテリアリティとの関係性

共有、発信の取り組み事例

グループ全体での一体感をつくる

事例 グループ内広報や共通ロゴマークの活用



意義や経緯を伝える

事例 グループ入社式、社内対話イベントの開催



志の世界観を社会に伝える

事例 志をモチーフにした企業ウェブサイト、志の世界観を伝える専用ページ(WEST MOVES)



事例 コンceptイメージCMの放映



マテリアリティごとのKPIの進捗

マテリアリティ	実現したい未来	2025年度までにめざす状態、KPIなど	2023年度実績
① 安全、安心で、人と地球にやさしい交通	交通全体がシームレスなサービスとして認識され、定着している未来	2027年度までの5年間を通じた目標 お客様が死傷する列車事故：発生させない 死亡に至る鉄道労災：発生させない	発生なし 2件
		2027年度の到達目標 【ホーム安全】 バリアフリー料金制度対象駅のうち、 ① 乗降10万人以上の駅にホーム柵を整備：整備率6割 ② 乗降10万人未満の駅にはホーム柵またはホーム安全スクリーンを整備：整備率5割	整備率48% 整備率12%
		【踏切安全】 対象踏切に対して、大型車が踏切に停滞していることを列車の運転士に音声で知らせる装置の整備 ① 「無線発報」装置を整備している踏切：整備率9割 ② 「画像認識」装置を整備している車両：整備率6割	整備率60% 整備率4%
		【地震対策】 山陽新幹線における地震対策 ① 構造物の倒壊を防止する対策(橋脚の補強)：整備率100% ② 大きな起動沈下を防止する対策(ラーメン橋台の補強)：整備率100% ③ 列車が大きく逸脱することを防止する対策(優先度が高い区間に対する逸脱防止ガードの整備)：整備率100%	整備率90% 整備率36% 整備率67%
		めざす状態 「安全最優先の風土」の醸成、「組織全体で安全を確保する仕組み」の確立、「一人ひとりの安全考動」の実践がなされている状態 ※到達目標の詳細については、弊社ホームページ「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」をご参照ください。	「現場の判断を最優先するマネジメント」、「お客様を思い、ご期待にお応えする」、「心理的に安全なチーム」づくり、「現場起点の考動」、「大切にしたい5つの価値観」を意識した考動等の推進
② 人々が行きかう、いきいきとしたまち	地域の魅力が高まり定住・交流・関係人口が増加していく未来	● 拠点駅周辺への来街者数 大阪駅周辺エリア 京都駅周辺エリア	1,490千人/日 514千人/日
③ 一人ひとりにやさしく便利で豊かな暮らし	リアルの良さとデジタルの組み合わせで“個客”体験が大きく高まる未来	● WESTER会員数 ● アクティブ会員数 ● モバイルICOCA利用者数	約811万人 約264万人 約149万人
④ 持続可能な社会	さまざまなパートナーとの連携を通じて持続可能な社会システムが構築されている未来	● WESTERを活用した地域ファンづくりの展開 ● 地域の課題解決につながるビジネスの創出 ● ご利用しやすい持続可能な地域交通体系の実現	城端線・氷見線 再構築実施計画認定
⑤ 地球環境		P60参照	P60参照
⑥ 価値創造の源泉であるひとづくり		【人材育成】 ● キャリア形成を支援する各種制度の利用者数：2,322名 そのうち、「移動に連動しない事業」に係るスキル保有者の割合：28% ● (管理職登用候補)複数の専門性獲得者の割合：30% ● (次世代経営人材)準備率：330%	3,099名 30% 48% 221%
		【ダイバーシティ&インクルージョン】 ● リーダーに占める女性の割合：8.0% ● 管理職に占める女性の割合：5.5% ● 障がい者雇用率：2.8%	6.8% 3.6% 2.94%
		【ワークエンゲージメント】 ● いきいき職場率：88%	60%

大切にしている価値観

トップメッセージ

めざす未来に向けた価値創造プロセス

価値創造の基盤となる取り組み

データ集